

# サイコロ

ISHIKAWA MERIYASU MAGAZINE

Special Feature

## “ 石川メリヤスの一日 ”



### Column

私と石川メリヤス

### News

ラブヒール® をリニューアルしました



## 石川メリヤスの一日

約150台の自動編み機でニット小物を生産している石川メリヤス。人間と機械が一体となって、「使う人のためのものづくり」を心がけています。作業用手袋の生産を中心に、ニット工場の日を写真でご紹介します。



**4:30** 先代社長が工場へ



工場の2階に自宅がある先代社長の石川君夫が起床してすぐに工場へ。24時間稼働の機械が糸切れなどで止まっている場合は直して再稼働。積み上がった製品は揃えます。



**7:00** 早番の社員が出勤



夜に止めていた機械の電源を入れて、前日の続きから編立作業を再開。機械の調子を上げるには時間がかかるので、みんなが来る前に動かしておくとい日がスムーズに進みます。



**9:30** 内職さん担当の社員が戻る



作業用手袋の手首を縫うなどの後工程をしてくれるのは近所の内職さんたちです。担当社員が製品を車で届け、工程が終わった製品を回収していったん工場に戻ります。「4人でそれぞれ20軒ほどの内職さんを担当しています。午前中に2往復、午後に2往復ぐらいします」。



**9:00** 原料の出し入れ

運送会社の方が原料の糸を持って来てくれます。



**8:30** 生産指図書を作成

顧客からの注文を工場に伝える「生産指図書」は事務所で作っています。「納期の管理が大変で、梱包や出荷の作業にも参加します」



**8:00** 全員出勤して各自の持ち場へ



毎朝、すべての機械に潤滑油をさします。編み立てる製品の編成データを機械に入れて調整し、針が折れたなどの軽い故障はそのつど修理します。原料の糸を補充し、製品を揃え、袋に入れて後工程に渡す作業など社員みんなで分担して進めます。



**9:45** 手袋の傷直し

内職さんから指摘された傷のある手袋は検品・梱包班が職人技で手早く直します。「昼までには直しの作業を終わらせて、午後はみんなと一緒に梱包作業をやっています」。



**12:00** 昼休憩

お昼休みは好きな場所で過ごします。食堂もありますが、自宅に戻って食事と家事をする社員も珍しくありません。



**17:00**



**18:00**

工場には2時日替わりで



## 10:00 各自のタイミングで休憩

石川メリヤスでは午前と午後に15分間の休憩があります。10時以降に、作業の切りのいいタイミングで各自が休憩してリフレッシュします。



3:00 製品を倉庫へ  
後の動き方は基本的に午  
と同じです。すぐに出荷し  
製品は倉庫に持って行  
出荷する製品を倉庫から  
します。



## 14:00 製品を出荷する

作業用手袋は金属探知機を通してから出荷単位で梱包します。運送会社の方が来る前に作業。みんな素早く動きます。



全員退勤



残業はめったにない石川メリヤス。17時になるとみんな帰っていきます。



遅番の社員が仕事を続ける

時間だけ残業する遅番の社員がいます。  
担当して機械を動かし続けます。

## 私と 石川メリヤス

1962年設立(創業は1957年)の石川メリヤスは2022年に設立60周年を迎えました。長くお世話になってきた方にお話を伺うシリーズの第5回は、和歌山市にある世界有数の編機メーカー、島精機製作所の島正博名誉会長。同社の創業者であり、「ホールガーメント横編機」などの発明家です。

弊社の前身となる三伸精機の設立は1961年。翌年に島精機製作所に商号変更しました。御社とは同い年です。

設立当時から全自動の手袋編機の開発を目指していた弊社は、1964年の年末に一週間不眠不休で全自動手袋編機(角型)の開発に成功。年明けに行った展示会では600台もの大量注文を得ました。開発資金がかさんで倒産寸前だった弊社が軌道に乗ることができた瞬間です。

この角型を買っていただいたうちの1人が(石川メリヤスの創業者である)石川進さんです。当時は編機が日進月歩の進化を遂げていました。石川さんは常にチャレンジ精神を持って新しいことに取り組んでおられました。だからこそ、日本どころか世界にもまだない機械を買って使いこなそうと決断できたのでしょう。

人間の仕事には「愛・氣・創造」の3つが大切だと私は思っています。お金ではなく仕事を愛し、やる気を出して、今ないものを生み出すこと。いずれもコンピュータにはできません。私は87歳の今でも工場に入って頭を使っている日々です。常に発見があります。私は現場が好きなのです。

御社には半世紀以上もお世話になって来ました。「愛・氣・創造」を胸に持ち、これからも共存共栄したいものです。



和歌山本社の応接室にて、昔の手袋を見ながらお話を伺いました。  
聞き手は石川メリヤス社長の太宮裕美です。



## News

### ラブヒール®をリニューアルしました

履いているだけでカカトを潤して足元を温める二重編み靴下「ラブヒール」。1993年の発売以来、「冬はこれでなくちゃ」という熱烈なファンの多い商品です。現代のニーズに合わせて、サイズや名称をリニューアルしました。

- 足底のサイズを1cmずつアップ。
- 男性向けの「ヒールケア」の名称を廃止し、「ラブヒールLサイズ」に。

新しいラブヒールは、Mサイズ(23~25センチ/8色展開)とLサイズ(25~27センチ/4色展開)の2種類です。Lサイズは従来のヒールケアに比べてレッグ丈は短めにしました。

| 名 称             | 品 番      | サイズ     |
|-----------------|----------|---------|
| ラブヒール® Mサイズ     | E-2131   | 23-25cm |
| ラブヒール® Lサイズ     | E-2132   | 25-27cm |
| ラブヒール® カカト保湿カバー | E-1859-1 | フリーサイズ  |
| ラブヒール® サマー      | E-91     | 22-24cm |
| ふわもこラブヒール®      | E-2029-1 | 23-25cm |

サイズの見分けを  
しやすくするため、  
Lサイズは内側に  
グリーンのステッチが  
入っています



デジタルカタログ



オンラインショッピング

! New !



ラブヒール® M  
E-2131

! New !



ラブヒール® L  
E-2132



カカト保湿カバー  
E-1859-1



ラブヒール® サマー  
E-91



ふわもこラブヒール®  
E-2029-1

## Editorial Note

日本社会の様々な「現場」にカメラを据えて定点観測をするNHK番組『ドキュメント72時間』。今のところ石川メリヤスには取材協力依頼が来ていないので自分たちで当社の一日を追ってみました。体験入社をした気分で読んでいただけたら幸いです。

島精機製作所では島正博名誉会長のお話を伺えました。当社の創業者である祖父の石川進は私が高校生のときに他界したため、残念ながら一緒に働いたことはありません。祖父を知る島会長から「仕事を愛すること」を教えていただき、かけがえのない体験になりました。この言葉を忘れずに、今後も一生懸命に働きます。(大宮裕美)

## Credit

編集・執筆・発行・写真 石川メリヤス有限会社  
Art direction & Design 相田貴子 (Consulting Design Tokyo)

2024年7月発行

### 冊子名『サイコロ』とは

「メーカーの基本は何よりも品質」。  
初代社長の想いが込められた創業以来の作業用手袋「サイコロ印」のブランド名から名付けました。  
本冊子では、この精神を守りつつ、  
石川メリヤスの「いま」をお伝えします。

商品問い合わせ&注文先

### 石川メリヤス有限会社

〒444-0515 愛知県西尾市吉良町富好新田紺屋堀 27-2  
TEL 0563-32-0420 FAX 0563-32-3066  
E-mail info@ishimeri.com URL https://ishimeri.com